



2024年1月30日(火)

研究インテグリティ研修会

論文やレポート等の剽窃防止の ためのiThenticate活用のススメ

琉球大学 研究推進機構研究企画室 主幹URA

河合 孝尚



特定不正行為(FFP) ⊂ 好ましくない研究行為(QRP) ⊂ 研究不正

発表された研究成果における
捏造・改ざん 盗用

故意

基本的注意義務の著しく怠る

研究の提案・実施・審査、研究結果
の報告における捏造・改ざん・盗用

二重投稿

査読不正

不適切な査読

不適切なオーサーシップ

不適切な研究デザイン

不十分な先行研究のレビュー

研究データの
不適切な管理

不十分な研究記録

サラミ出版

共同研究者間の不十分なコミュニケーション

※ 2022年研究公正シンポジウム
「公正な研究活動の推進に向けて」、中村氏発表資料を参考に作成

盗用とは

【文部科学省定義】

『故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによる、投稿論文など発表された研究成果の中に示されたデータや調査結果等の捏造、改ざん及び盗用である。』

●捏造(Fabrication)

存在しないデータ、研究結果等を作成すること。

●改ざん(Falsification)

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

●盗用(Plagiarism)

他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること。



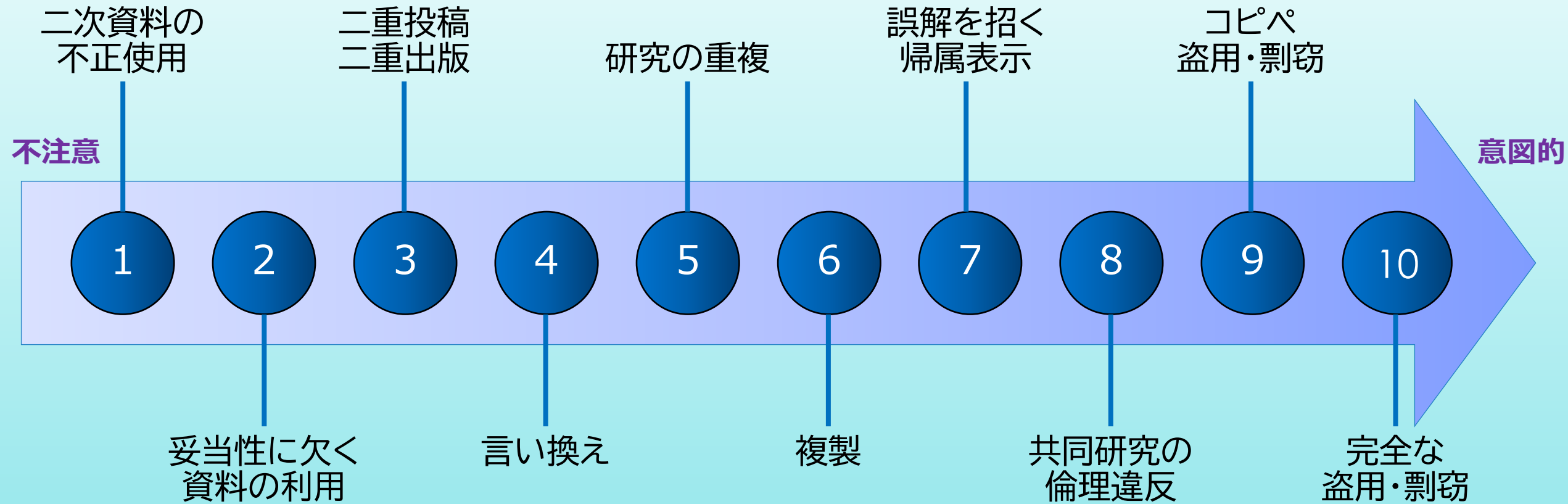
剽窃（ひょうせつ）とは

●剽窃(plagiarism, piracy)

他人の著作から全部または部分的に文章、図表、語句、話の筋、思想などを盗み、自作の中に**自分のものとして用いる**こと。

- ✓ 友人が書いたレポート等を写す
- ✓ ネット上の情報を自分のレポートに貼り付けてしまう行為
(いわゆる「コピペ」)。

研究活動における盗用・剽窃の種類



出典：Turnitin：eBook「変わりゆく研究環境のなかで研究公正と倫理規準を守る」



なぜ今、剽窃防止が 重要なのか



世界的な学術出版社による研究成果の市場支配への対応の方向性(案)

【基本方針】

- 価値観を共有する国との連携（G7科学技術大臣会合：本年5月12～14日 仙台開催）
- 国レベルのオープンアクセス（OA）に関する方針を策定
 - ✓ 欧州（独・仏など）では既に対抗措置をとり、OSTP（米国大統領府科学技術政策局）も昨年8月にオープンアクセス方針を公開し、我が国でもCSTIIにおける集中的な検討を開始（昨年11月より）

公的資金による研究成果の速やかな国民への還元
・地球規模課題（感染症、災害等）への貢献

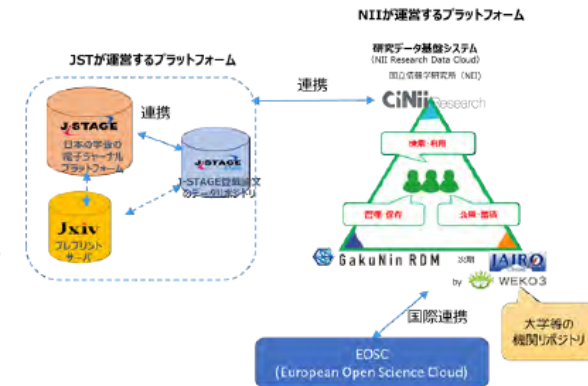
2025年度新規公募分から、学術論文等の即時オープンアクセス<検討中>

【具体的施策】

1. 公的な研究成果プラットフォーム（NII・JST）の充実。公的資金による学術論文の著者最終稿（バックデータ含む）の掲載の義務づけ（2025年度新規分公募より）<グリーンOA>
2. 掲載公開料（APC）の支援<ゴールドOA>
3. 学術出版社に対する交渉力の強化（国としての交渉体制の構築など）
4. 研究者や研究コミュニティの研究成果発信力の強化
5. 国際的な連携（G7等の価値観を共有する国との学術出版動向のモニタリング、政策連携など）

【環境整備】

1. 開かれた学術出版の市場環境の構築
2. 研究コミュニティの自律性の確保と適切な評価システムの構築



※NII：国立情報学研究所、JST：科学技術振興機構



オープンアクセス(Open Access)化に伴う懸念

博士論文:

平成25年4月1日施行博士論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨の公表を「インターネットの利用により公表」することとする。

科学研究費助成事業科研費(科研費):

科研費とオープンアクセスの推進

科研費の大きな特長の一つは、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたる「学術研究」を幅広く支援している点にあります。このため、**科研費の助成を受けた研究の論文について、オープンアクセス(OA)化を推進**し、研究者の研究成果に関する情報発信力を強化することは、我が国及び世界の学術研究の発展に大きく寄与します。

オープンアクセス化の推進について:パブリックコメント

- ・閲覧希望者にとってアクセスが容易となり、利便性の向上が見込まれる。
- ・大学や公的研究機関における機関リポジトリの構築の推進や、教育研究成果の電子化による体系的保存やオープンアクセスの促進につながるものと期待。
- ・インターネットの利用による公表により、**剽窃が容易になることが懸念される。**

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/004/gijiroku/attach/1330545.htm

法的リスク：著作権の侵害（著作権法違反）

第三十二条

公表された著作物は、引用して利用することができる。

この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用
の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければな

らない。

例えば、

- ・引用を行う「**必然性**」があること
- ・言語の著作物についてはカギ括弧などにより「**引用部分**」が**明確**になっていること。

出典：文化庁 著作権なるほど質問箱

近畿大 元准教授が盗用など不正行為 19論文の撤回を勧告

07月20日 17時36分



近畿大学は、法学部の40代の元准教授が執筆した19の論文に、盗用などの不正行為があったとする調査結果を公表し、論文の撤回を勧告しました。

これは近畿大学が20日、記者会見を開いて明らかにしました。

大学によりますと、法学部の40

代の元准教授が2007年から2019年にかけて発表したアメリカの法律などに関する19の論文に、ほかの論文からの盗用などの不正行為があったということです。元准教授は執筆した書籍に他人の本の内容を無断転載していたとして4年前（2019年）に諭旨解雇の懲戒処分を受けていて、大学では元准教授がこれまでに発表した26の論文について調査していました。



研究不正行為（盗用）の認定並びに修士の学位及び課程修了の取消しについて（令和5年6月22日）

研究不正行為（盗用）の認定並びに修士の学位及び課程修了の取消しについて

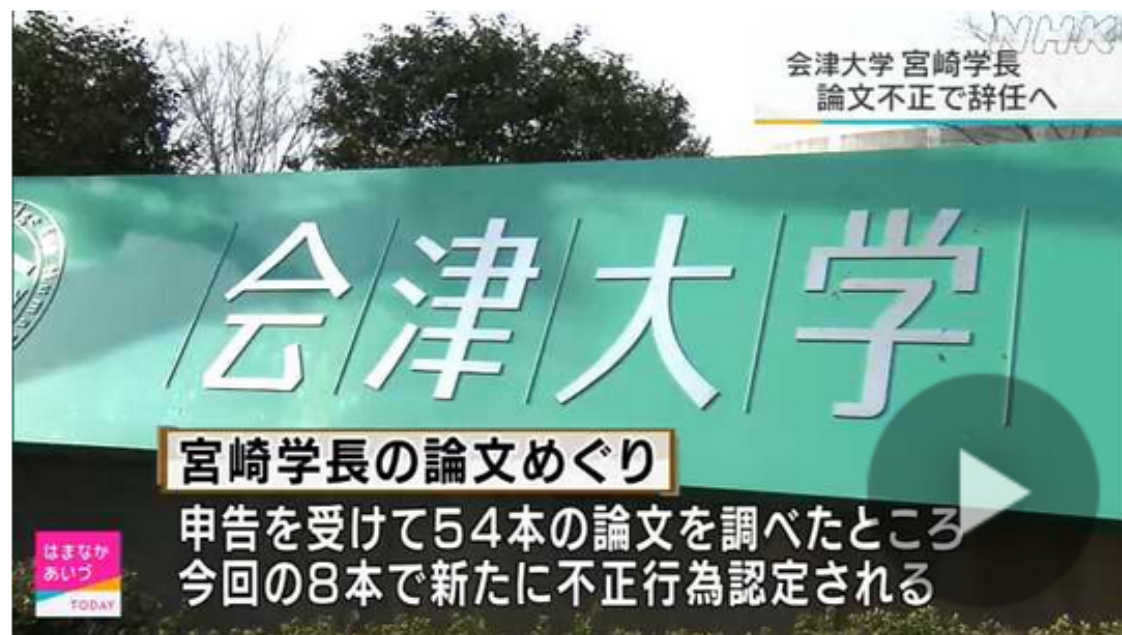
本学大学院修士課程地域研究研究科の大学院生（当時）が提出した修士学位論文について、研究不正行為（盗用）の疑いが浮上し、調査の結果、盗用があったと認定しました。

これを受け、本学教育研究評議会において、筑波大学学位規程に定める学位の取消しの要件に該当するか否かを審議した結果、「不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき」に該当すると判断されたため、修士の学位及び課程修了の取消しを決定しました。

出典：筑波大学ホームページ (<https://www.tsukuba.ac.jp/news/20230622152148.html>)

会津大学の宮崎敏明学長 論文の不正行為などで辞任へ

07月27日 18時36分



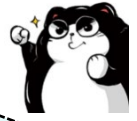
自己盗用・自己剽窃

会津大学の宮崎敏明学長が過去発表した8本の論文でほぼ同じ内容の論文を繰り返し発表するなどの不正行為があったなどとして今月末で辞任することになりました。

これは27日、会津大学が県庁で開いた会見で明らかにしました。

それによりますと、宮崎敏明学長は教授だった平成20年から平成28年にかけて国





投稿予定
論文

自己盗用・自己剽窃とは

河合ら（2021）は、「世界の政治の中心は那覇市であり、首里町である。」¹⁾と結論付けたが、この見解は正しいが若干補足は必要である。

参考文献

1) 河合孝尚，沖繩一郎，引用茂，“首里町は世界の中心”，沖繩政治論，2016，Vol32，pp21-26

引用が無いと「自己盗用(自己剽窃)」となってしまいます!



自己盗用・自己剽窃に含まれる行為

◆ 自己盗用・自己剽窃には次のような行為が含まれます。

- 過去の研究成果を使用すること(テキストのリサイクル)
- ひとつの研究成果を、同分野の複数の学術誌に投稿すること(二重投稿・二重出版)
- ひとつの研究成果を分割して複数の出版物にすること(サラミ出版)
- 過去に出版された研究内容を、適切な引用をせずに別の論文に加えて投稿すること(増補出版)
- 著作権の侵害

これらすべては研究不正(自己盗用・自己剽窃)と見なされ、**個人の評判を毀損するもの**となり得る。

出典：Turnitin：eBook「変わりゆく研究環境のなかで研究公正と倫理規準を守る」

なぜ自己盗用・自己剽窃が増えているのか

自己盗用・自己剽窃を見過ごしがちな理由は、研究者は論文を書くとき、自分で考えた概念を再使用して論考をまとめるので、他者のアイデアを盗むことにはならないと思ってしまうから。

それでもなお、自己盗用・自己剽窃は研究不正の一種で、著作権の侵害にもなり得る！

学生も同様！

自分の過去の成果物をリサイクルしても盗用・剽窃にはならないと考えるかもしれないが、それは不正行為！

- ✓ 学生は他の授業で提出したレポートを別の授業で再利用
- ✓ 過去に書いたレポートの一部を新しいレポートのためにコピー・アンド・ペースト

自分の成果を複製して新たな成果として発表することは、自己盗用・自己剽窃となる！！

出典：Turnitin：eBook「変わりゆく研究環境のなかで研究公正と倫理規準を守る」

iThenticateの御紹介



防止対策の1つ：iThenticateの紹介

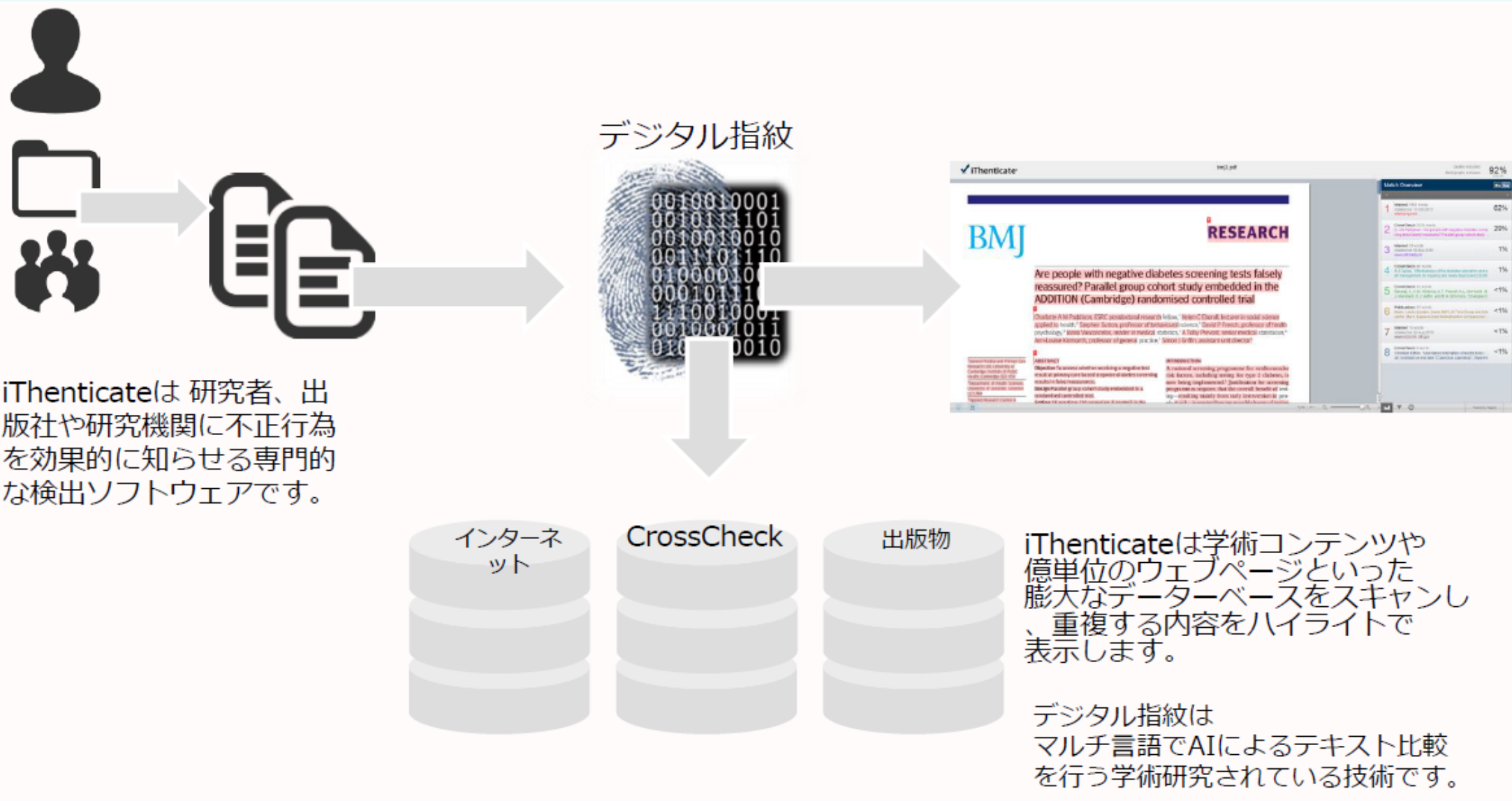
世界中の研究機関で利用されている“剽窃チェックツール”

iThenticateは主に大学や企業の研究者、学術機関、政府機関、出版社等が執筆した論文、出版物等を公開する前に既存の論文と照合し、剽窃を探知するためのオンラインツール。

クラウドサービスなので、論文をアップロードするだけで、数分以内に既存のデータベースとの照合結果がパーセンテージで表示され、一致した箇所のソースも確認できる。



iThenticate



世界最大のデータベースで信頼性の高い比較が可能

学術出版社

世界中の著名な出版社1,700社以上が iThenticateを使用しており、世界Top10,000のジャーナルのうち95%のジャーナルが iThenticateのデータベースに含まれています。

コンテンツパートナー

コンテンツプロバイダーからの1億1000万以上のオンラインおよびオフライン購読コンテンツと研究タイトルが含まれています。

主なコンテンツアグリゲーター、データベースコンテンツプロバイダー



インターネット

iThenticateのインターネットクローラーにより、現在アーカイブされているWebページ数 910億以上毎日クロール及び更新されるWebページ数 1億200万毎日追加されている新しいWebページ数2,200万

iThenticateは日本語にも対応

日本語を含めた30ヶ国の言語がiThenticateで類似チェック可能。

中国語(簡体字/繁体字)、日本語、タイ語、韓国語、カタロニア語、クロアチア語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ハンガリー語、イタリア語、ノルウェー語(ボクマル語、ニーノシュク)、ポーランド語、ポルトガル語、ルーマニア語、セルビア語、スロバキア語、スロベニア語、スペイン語、スウェーデン語、アラビア語、ギリシャ語、ヘブライ語、ペルシア語、ロシア語、トルコ語

ユーザーインターフェース表示言語:

英語、日本語をはじめ、中国語(簡体、繁体)、ドイツ語、スペイン語、フランス語、イタリア語、オランダ語、韓国語、ポルトガル語で表示可能。

iThenticateの活用用途

- 論文等(指導する学生の学位論文やレポート課題の確認も含む)のチェック
 - 出版社や学会、紀要へ投稿する研究論文のチェック
 - 博士学位論文、修士論文、卒業論文の発表・公表前の論文剽窃チェック
(作成指導も含む)
 - 国際会議投稿論文のチェック
 - 紀要に掲載する論文チェック
 - 自己重複の確認(自分の過去の論文との比較)
- 盗用・剽窃防止に対する意識向上、不正への抑止
- 自己防衛(共著の方の作業確認)

琉球大学ではiThenticateが無料で使えます！

URL:<https://res.skr.u-ryukyu.ac.jp/ithenticate.html>

※ 本学の常勤の研究者(事務職員・技術職員含む)および大学院生

利用を希望される方は、以下のフォームより申請ください。(随時受付)

登録申請フォーム:<https://forms.office.com/r/5JuV2Hp2rJ>

※情報基盤統括センター発行のE-mailアドレス(@cs.u-ryukyu.ac.jp)とパスワードが必要です。

【iThenticate担当】

総合企画戦略部研究推進課研究支援係

TEL:098-895-8815(内線 2013・2807)

E-mail:knsien@acs.u-ryukyu.ac.jp

剽窃チェックツール

『iThenticate』

利用申込フォーム

総合企画戦略部研究推進課研究支援係 (iThenticate担当)
E-mail : knsien@acs.u-ryukyu.ac.jp

今すぐ開始



UNIVERSITY
OF
THE RYUKYUS

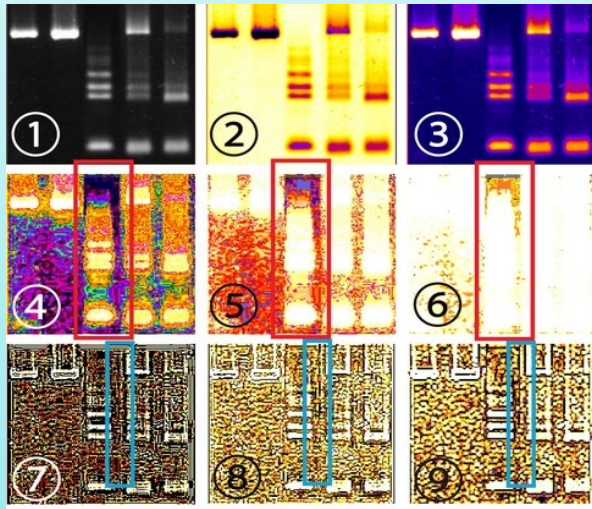
最後に



不正はバレます

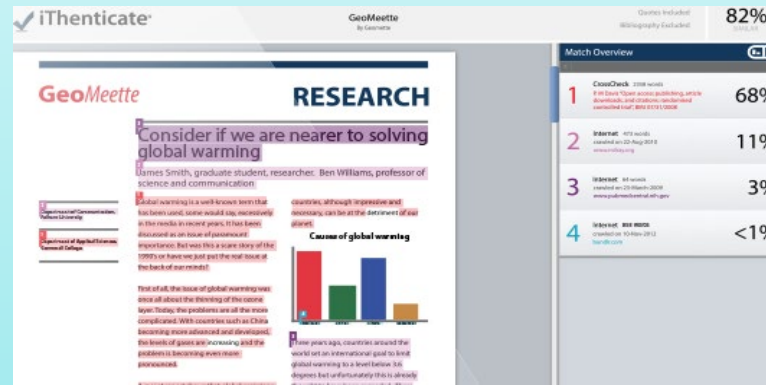


内部告発 . . .



画像改ざん検知
「LP-exam」

出典：エルピクセルHP



剽窃（盗用）検知
「iThenticate」

出典：iThenticate HP

nature
International journal of science

Access provided by Gakushuin University

Altmetric: 861 [More detail >>](#)

Letter

Earliest known hominin activity in the

論文Web公開

⇒ **世界中で査読**

doi:10.1038/s41586-018-0072-8

Download Citation

Archaeology Cultural evolution

Accepted: 14 March 2018
Published: 02 May 2018

Abstract

Over 60 years ago, stone tools and remains of megafauna were discovered on the Southeast Asian islands of Flores, Sulawesi and Luzon, and a Middle Pleistocene colonization by *Homo erectus* was initially





- バレないと思った。
- みんなやっている。
- 楽をしたい。
- 命令に従っただけ。
- 結果を急ぎたい。

etc.

研究不正行為をしても
何も良いことはありません！

私からの説明は以上です。

ご清聴ありがとうございました♪

